

平成 30 年 5 月 9 日

関東ラグビーフットボール協会

会長 水谷 眞 様

関西ラグビーフットボール協会

会長 坂田 好弘 様

九州ラグビーフットボール協会

会長 森 重隆 様

(公財)日本ラグビーフットボール協会

専務理事 坂本 典幸



ルーリング 2018-2

「競技規則第 15 条 - ラックに関するルール改正 (2018 年 1 月～の試験実施)」

(競技規則の確認) <通達>

拝啓、平素は日本ラグビーの普及発展につきまして多大なるご尽力を賜りまして厚く御礼申し上げます。

さて、競技規則につきまして、ワールドラグビーよりこのほど、下記の通りルーリングに関する通達が出されました。日本協会でもこれを受け、ここに通知いたします。貴協会におかれましても加盟都道府県協会、および、各チームに周知徹底いただけますようよろしくお願い申し上げます。

敬具

記

オーストラリアラグビー協会は、競技規則第 15 条-ラックに関するルール改正 (2018 年 1 月～の試験実施)について、解釈の明確化を要請する:

本書は、ワールドラグビー競技規則第 16 条の試験実施ルール (ラックのルール改正、2018 年 1 月 1 日現在では競技規則第 15 条) にまつわるオーストラリア協会による解釈の明確化の要請に関する、ワールドラグビーとオーストラリアラグビー協会のゼネラルカウンシルであるパトリック・アイヤーズ氏との間の最近のやりとりについて照会するものである:

“ラックは、少なくとも一人のプレーヤー(タックルされたプレーヤー、タックラー)が、両足で地面にあるボールをまたがって立つことで開始される。この時点で、オフサイドラインが形成される。両足で立ったプレーヤーは、すぐに行う限り、ボールを捨てること許される。敵のプレーヤーが到着した瞬間、手の使用はできなくなる”。

オーストラリアラグビー協会は、ここで特に、一人目のアライビングプレーヤーがボールの上に立ったときにオフサイドラインが形成される競技規則条文は、「タックル時にオフサイドラインがない」問題を解決することだけを意図しており、ブレイクダウンにおいてボールが争奪される方法を変更することは意図されていなかったという解釈について、明確化を求める。すなわち:

- ・ 防御側のチームの一人目のアライビングプレーヤーは、もしボールを直接手で取りに行くことができるなら、そのようにしてよい。
- ・ (b) そのプレーヤーがボールに近づくにはまず攻撃側のプレーヤーを追い払わなければならない場合、手を使うことはできない。

オーストラリアラグビー協会では、本試験的实施ルールの幅広い理解と各競技における適用の支援するためにも、上記に関するワールドラグビーの正式な解釈の明確化を求める。

ラグビー委員会の指定メンバーによるルーリング:

3つの質問とも、貴協会の推測は正しい、すなわち:

- 1) 一人目のアライビングプレーヤーがボールの上に立ったときにオフサイドラインが形成される競技規則条文は、「タックル時にオフサイドラインがない」問題を解決することだけを意図しており、ブレイクダウンにおいてボールが争奪される方法を変更することは意図されていなかった。
- 2) 防御側のチームの一人目のアライビングプレーヤーは、もしボールを直接手で取りに行くことができるなら、そのようにしてよい。
- 3) そのプレーヤーがボールに近づくにはまず攻撃側のプレーヤーを追い払わなければならない場合、手を使うことはできない。

追加

15人制ラグビーの競技規則レビューグループ(LRG)が4月16日(月)に招集され、ラックに関する試験実施ルールを正式な競技規則に含めることで同意した。また、以下に記す条文の文言のシンプル化とさらなる論理的化についても同意した:

オフサイドラインは、少なくとも一人のプレーヤーが両足で地面にあるボールをまたがって立ったときに形成される。ラックは、各チームから少なくとも1名ずつのプレーヤーが接触しており、立ったままの状態、地面にあるボールに被さっていることで形成される。

上記の修正された文言が今回の質問を解決する手助けになることが期待される。

以上

平成 30 年 5 月 9 日

関東ラグビーフットボール協会

会長 水谷 眞 様

関西ラグビーフットボール協会

会長 坂田 好弘 様

九州ラグビーフットボール協会

会長 森 重隆 様

(公財)日本ラグビーフットボール協会

専務理事 坂本 典幸



ルーリング 2018-3

「競技規則 3.6 - 一時的交替 - 頭部外傷の評価(HIA)」

(競技規則の確認) <通達>

拝啓、平素は日本ラグビーの普及発展につきまして多大なるご尽力を賜りまして厚く御礼申し上げます。

さて、競技規則につきまして、ワールドラグビーよりこのほど、下記の通りルーリングに関する通達が出されました。日本協会でもこれを受け、ここに通知いたします。貴協会におかれましても加盟都道府県協会、および、各チームに周知徹底いただけますようよろしくお願い申し上げます。

敬具

記

ワールドラグビーのハイパフォーマンス 15 人制マッチオフィシャルマネージャーのアラン・ローランド氏はブレット・ゴスパー氏経由にて、競技規則 3.6 - 一時的交替 - 頭部外傷の評価(HIA)について、解釈の明確化を要請する:

先日行われたスーパーラグビーの試合での事象を受け、下記の状況における解釈の明確化を求める:

プレーヤーが HIA を受けるためにプレーから離れたが、そのチームは入替えのプレーヤーを全員使い果たしてしまっている場合、一時的交替は認められるのか? また、そのプレーヤーが HIA の結果プレーに復帰できないとなった場合、その一時的交替は正式な交替になりうるのか?

ラグビー委員会の指定メンバーによるルーリング:

競技規則 3.26 は、このような事象について以下のように明らかにしている:

成人のエリートレベルの試合では、ワールドラグビーが事前に HIA プロセスの使用を承認しており(競技に関する規定 10.1.4、10.1.5 に準ずる)、頭部外傷の評価を受けるプレーヤーは:

- a. フィールドオブプレーから離れる; および、
- b. 一時的交替を適用される(交替要員がすべて出場してしまっても)。プレーヤーが競技区域を出てから 10 分以内(実時間)にフィールドオブプレーに戻ることができない場合、その交替は正式なものとなる。

このことは、HIA のプロトコルと手続きに関する文書にある「手続きに関するよくある質問」の中の質問 20 でも言及されている。

20. プレーヤーが HIA を受けるためにプレーから離れたが、そのチームは入替えのプレーヤーを全員使い果たしてしまっている場合、一時的交替は認められるのか?

認められる。入替えのプレーヤーを全員使い果たしてしまっている場合も、頭部外傷による一時的交替は認められる。そのプレーヤーが頭部に衝撃を受けたことにより正式な交替を必要とする場合は、医務室での分類に関係なく、それは、即時の、かつ、正式な退出またはフィールド外での検査を意味し、たとえ負傷したプレーヤーがフィールドを出てから 10 分間を過ぎても戻って来なくても、一時的交替で出たプレーヤーがフィールドに残ることが認められる。

誤解にないよう申し加えるならば、他の交替要員が残っていても、戦術的に入替わったプレーヤーがプレーに戻り、頭部外傷を受けたプレーヤーと交替することができるのである。

追加

競技規則 2017 年版でも、このことが明確に記されている(競技規則 3.10 - 競技規則の改正・試験的 HIA の条項(a))。これは、負傷したプレーヤーがプレーに戻ることができない場合に交替要員がピッチに残ることを認める既存の出血を伴う負傷に関する競技規則と一致している。

HIA のプロトコルと手続きに関する文書には旧版があり、わかりにくくなっているが、現在はどちらの文書もきちんと整合性がある。

以上